



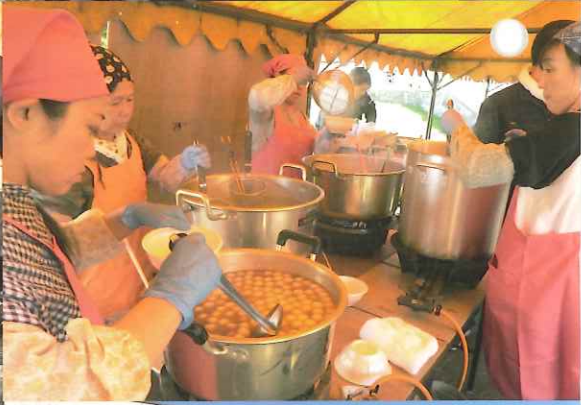
JAゆうべつ町



KAGAYAKU TSUBASA

輝く翼

湧別町の空に飛ぶ白鳥を見た時、私は素敵だなと感動しました。「JA ゆうべつ町」が飛躍する事を願い、群れをつくり大空に羽ばたく真っ白な白鳥の様に、気持ちを新たに一致団結して前へ大きく前進する願いを込めてデザインのイメージをしました。そして皆さんが愛読するにあたって、優しく温かい気持ちになれる様にと虹の橋を架けました。先頭を飛ぶ真ん中の白鳥にはリーダーと言う意味があり、冠を付けてみました。



芭露収穫大感謝祭 (H30.10.13)

2018年(株)Aコープゆづべつ主催

芭露収穫大感謝祭を開催



10月13日、(株)Aコープゆづべつ芭露収穫大感謝祭を芭露支所事務所前駐車場にて開催致しました。前日には、雨が降り当日の開催を心配しましたが、当日は晴天に恵まれ、じゃがいもの袋詰め放題、モツ鍋・牛肉販売、女性部によるうどん・そば、おしるこの販売もあり会場は多くの来場者で賑わいました。



▲お菓子つむつむ大会



▲大道芸人パフォーマー刹那、

恒例となりました、お菓子つむつむ大会・牛乳早飲み大会等のイベントの他に大道芸人パフォーマー刹那による視覚効果を利用したパフォーマンスで会場は大いに盛り上がり、最後はちびっこお菓子まき・大人もちまき、ビンゴゲーム大会で締めくくり、無事収穫祭を終了することができました。



ビンゴ特賞おめでとう!



じゃがいも詰め放題の様子



オホーツク農業祭でPR
 ～JAゆづべつ町青年部～
 オホーツクJA青年部協議会主催のオホーツク農業祭2018が10月13日にサンドーム北見で開催され、JAゆづべつ町青年部も参加しました。
 この農業祭はオホーツク産農畜産物や加工品の販売を通じ青年部員と消費者との交流・理解の醸成を目的に行っており、今年度も各農協の青年部が地元の農産物や特産物などを出店し、JAゆづべつ町青年部では「ゆづべつ牛」とユペの里考案の「牛乳うどん」をPR及び販売を行いました。
 商品については好評のうちに売れて行き、ゆづべつ牛については用意していた在庫全てが完売致しました。今回の販売を期に、当農協の生産物の美味しさが各地に広がる事を期待しています。



第38回
湧別町産業まつり

9月23日、湧別町憩いの広場にて、湧別町の恒例行事である「第38回湧別町産業まつり」が開催され、当組合も一次産業の振興発展を願い、秋晴れの会場に集う町内外の皆様に牛乳の無料配布を行いました。

また、JAゆづべつ町女性部はそれぞれの家庭菜園で収穫した野菜を持ち寄り袋詰めした野菜市、女性部ゆづべつマルシェ部会による牛乳うどんの販売、㈱Aコープゆづべつでは地元産牛肉「ゆづべつ牛」を販売し、焼き肉コーナーで実際に食べてもらうなど、多くの来場者に湧別町の美味しい味覚を提供しました。



▲牛乳の無料配布



▲野菜市での販売の様子



第6回
JAえんゆう・JAゆづべつ町
組合長杯少年野球大会が開催

第6回JAえんゆう・JAゆづべつ町組合長杯少年野球大会が9月29日と9月30日に開催されました。

野球を通じて農業協同組合の事業理解を図り、地域貢献の一環として明るく礼儀正しい健やかな青少年を育成する事を目的にして開催される今大会は湧別、遠軽町内及び招待4チームを含めた6チームが参加し、決勝戦では中湧別スポーツ少年団と遠軽東イースターズの戦いが繰り広げられ、どちらも一歩も譲らない手に汗を握る激戦の末、4対9で遠軽東イースターズが優勝しました。



「両地区年金友の会」PG大会
自頃の成果を発揮
親睦を深める

9月20日に、芭露パークゴルフ場にて、湧別地区と芭露地区の年金友の会が交流の場として親睦恒例のパークゴルフ大会を開催しました。

両地区で22名の参加で昨年より減りましたが、参加者は日頃の成果を十分に発揮する方や健康のためにとプレーを楽しんでいました。また、ホールインワンもでてレベルの高い結果となりました。

成績は、男女とも二年連続優勝となり、男性の部 本田勝樹さん、女性の部 上枝道子さんとなりました。



来年も、両地区年金友の会の交流会を予定していますので多数の参加をお待ちしています。

酪農学園大学の学生たちが研修をおこないました

9月18日から20日にかけて、江別市の酪農学園大学の生産動物看護研究室の3年生8名を湧別町に招き、酪農現地研修会を開催しました。今回の研修では町内農家の見学や酪農ヘルパーの作業見学、JAゆうべつ町女性部フレッシュミズ部会との懇親会などを行いました。



学生たちは2〜3名のグループに分かれ、農家の見学については上芭露の憐ウエダファームに伺い、実際に搾乳が行われている現場を視察、酪農ヘルパーの作業見学については川西の野津実さん、芭露の大口真一郎さんの牛舎でヘルパー職員と一緒に簡単な作業を体験させて頂きました。



JAゆうべつ町女性部フレッシュミズ部会との懇親会では、学生たちが酪農家の日常について質疑時には談笑を交えつつ親睦を深めました。

また、2泊3日に及ぶ酪農現地研修会の期間中は今年度の3月に完成した研修宿泊施設「みるくる」を利用して頂き、学生たちからは「炊事道具から寝具まで完備されていて、研修には最適な環境でした」との感想を頂きました。

今回の研修を終えて、小清水町出身の原田沙耶さんは「今回の研修で色々な事を体験できました。これから生産動物に関して勉強をして、将来の仕事選びに繋がりたいです」と意欲を示しており、酪農現地研修会で新たな将来のビジョンを一つ得る事ができたみたいです。

今回協力頂きました組合員・関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

母と秋と紅葉と



JAゆうべつ町女性部リフレ部会は10月18日に「秋の紅葉ウォーキング」を開催しました。

当日は気温10℃前後と肌寒く、

空は厚い雲におおわれ小雨もパラパラと降り始め、残念ながら中止を検討していたところ、当日集まった11名の「歩きたい！」という思いが天に伝わったのでしょうか、

目的地に着く頃には、心地よい汗と空腹感、部員達の溜まっていた体のコリと疲労も少しは解消された事でしょう。

ママが押ししてくれるベビーカーに揺られて子供たちはスヤスヤと眠ってしまったたり、秋の冷たい空気と景色に、親子共々ご機嫌なひとときを過ごせたようです。

集合時間をすぎる頃には眩しい太陽と青空が広がりました。秋の木漏れ日のなか、道中の栗を拾ったり、赤黄に色づく木々を眺めたり、育児や家業の話に花を咲かせながら「リラ街道ウォーク」を満喫することができました。



大まぐらつて里帰り

公共牧野閉牧



本年も、育成牛の管理労力軽減及び経費削減と丈夫な牛づくりを目的として事業を進め、5月18日・19日に入牧し、今月20日に各牧野の乳牛を下牧し、本年の牧野での飼養管理を終了致しました。本年より、牧野臨時職員が3名新たに変わり、芭露牧野については40ha更新を行うなど、例年とは異なる年となりました。

本年度の入牧頭数は

川西牧野151頭

東牧野 153頭

芭露牧野232頭

合計536頭となり、酪農家の減少

により毎年減少している状況ですが、牧草地の更新など進め、経営のサポート事業としての役割を強化していきたいと考えています。

デントコーンの収穫が終了する

9月中旬より湧別地区、芭露地区で早刈り作業をスタートさせ、約1ヶ月間に渡るデントコーンの収穫作業が終了しました。

夏場の低温による生育不良の圃場もあり、適期に収穫できるような作業を進めて参りましたが、収穫期の天候不良により計画通り収穫は出来なかつたものの、組合員の方々のご理解、ご協力のもと無事全ての圃場の収穫作業を終えることが出来ました。



▲収穫作業の様子

新規採用職員紹介

JAゆうべつ町では、新人職員1名が10月1日付で配属されました。まだ不慣れなため、組合員の皆様にはご迷惑をお掛けするかとはい思いますが、ご指導をよろしくお願い致します。

施設課 整備係

廣井晃彦



今までの経験で得た知識を職員や組合員の皆様の為に生かして頑張ります。

- 出身地 遠軽町寿町
- 趣味 犬のさんぽ、ゴルフ、バイク
- 特技 サッカー

○人事異動のお知らせ○

左記の通り、人事異動が有りましたのでお知らせ致します。
(10月1日付)

■中川 太嗣

施設課 整備係

施設課 農業機械係

JA ゆうべつ町一日皆貯金運動

Aコープ商品券を当てよう!

特賞 5,000円券 1名様他
総額約 50,000円

取扱期間 平成30年11月12日(月)~19日(月)

詳しくは11月1日新聞折り込みをご覧ください。



園芸

雪踏みによる

土壤凍結促進効果

近年は積雪が多く土壤凍結が浅い傾向にあります。しかし、今春は12月の降雪が少なく土壤凍結が深く入ったことで、土壤のこなれ（碎土）が良くなり、春先の耕起作業能率の向上が見られました。

① 土壤凍結促進効果

人為的に雪踏みを実施し、土壤凍結を入れることで透水性・物理性の改善や土壤窒素の溶脱が低減し作物の生産性向上が期待されます。

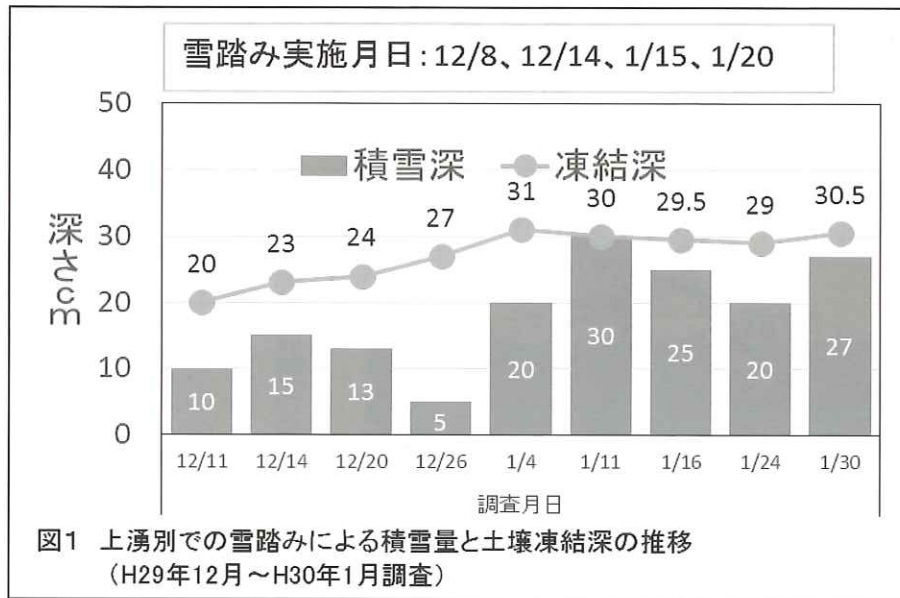
② 雪踏みの方法

雪踏みタイヤローラーを直装・牽引したトラクターにより、積雪深が15cm以上になったら実施します。土壤凍結深は30cmを目標とし雪踏みを実施します(図二)

③ 注意する点

土壤凍結を促進すると融雪後の地温の上昇と土壤の乾きは遅れま

す。早期のは種や移植するほ場では早めに融雪促進を行いましょう。



紫外線カットフィルムについて

病害虫の抑制や生育の促進を目的としたフィルムで、当管内では遠軽町のアスパラガスで実証中です。

① 紫外線カットフィルムの特徴
太陽光は、紫外線や可視光、赤外線まで広い波長で分布しています。一般には、波長三百八十nm以下の近紫外線を除去するフィルムで、種類により、除去される波長域が多少異なります。効果は、糸状菌の孢子形成の阻害や害虫(アザミウマやコナジラミ等)の活動を抑制する等の効果があります(表1)。

② 注意する点
病害虫の抑制効果がある一方、ミツバチの活動を抑制することから、ミツバチを交配に利用する、イチゴやメロン栽培等では使用を避けます。また、アントシアニン色素によって着色が促進される花や果実栽培では、その発色が阻害されるため使用できない作物もあります(表1)。

表1 使用できる作物と効果・注意点

〈使用できる作物と効果〉	
アスパラガス	斑点病・アザミウマ被害の軽減
ピーマン・キュウリ	病害・アザミウマ被害の軽減
夏まきほうれんそう	萎凋病・生育促進効果
宿根カスミソウ	アザミウマによる被害軽減

注意点 〈使用を避けた方がよい作物(紫外線を利用する作物)〉	
ミツバチを利用する作物	ミツバチの訪花活動を阻害
バラ・アリストメリア・スターチス (その他多種の花卉類)	アントシアニン色素の生成を阻害 花色や果皮色の発色が悪くなる
ナス・ブドウ 他	



畜産

『寒冷期の飼養管理を再確認』

一 冬期間でも換気は重要

寒い冬は、牛舎の窓を閉め切つてしまいがちです。換気が不十分だと、ふん尿からのアンモニアや、呼吸からの水蒸気やガスが牛舎内にこもつてしまいます。アンモニアガスがこもると呼吸器の粘膜が傷つき、呼吸器病などの疾病にかかりやすくなります。また、結露も発生しやすく、機械類の故障にもつながるため、最低限の換気は必要です。

日中や暖かい時間は窓や扉を開け、新鮮な空気の確保に努めましょう。また、トンネル換気のある牛舎では、水道が凍結しない程度に、風量を調節して換気扇を回しましょう。なお、古い牛舎では断熱性が低下している場合があります。その場合は、写真のような断熱材の取り付けが有効です(写真1)。

二 厳寒期のほ育管理について

11月に入ると最低気温がマイナスになり、徐々に寒くなってきました

す。子牛は成牛よりも寒冷ストレスを受けやすく、免疫力が低下します。特にほ乳期間は13℃以下になると摂食した栄養は代謝の維持(呼吸や消化など)に優先的に回され、成長(増体)が遅れてしまいます。ほ育期の寒冷ストレス対策についてもう一度見直して、厳寒期の前に備えましょう(表1・写真2)。



写真2 乾燥した床とカーフジャケットの着用



写真1 天井や壁に断熱材を取り付けた牛舎

表1 ほ育期の寒冷ストレス対策

【対 策】	【方 法】
1. 体をぬらさない、汚さない	・豊富な敷料の投入と交換
2. 風(すきま風)や冷気を当てない	・壁際(すきま)を板や断熱材でふさぐ
3. 体を暖める	・ヒーターやカーフジャケットの利用 ・日当たりの良い場所で飼養 ・温水の給与
4. 風邪や肺炎の防止	・最低限の換気 ・良質な初乳の給与(免疫の獲得)
5. 増体に必要なエネルギーの確保	・代用乳の量を増量 ・スターターの給与量を増量 ・エネルギーとタンパクの高い製品を利用

続々「JA」

第8回 農協改革への回答は 改革プラン

平成26年5月、規制改革会議は中央会制度の廃止や全農の株式会社化などJA潰しともとれる答申を発表し、これを踏まえて政府は翌6月に「規制改革実施計画」を閣議決定し、農協系統組織に自己改革を迫ってきました。JAグループ北海道はこうした動きを見据えて6月17日の全道農協組合長会議で「改革プランの策定」を決定し、8月から9月にかけて全道各地で組合員組織討議が行われました。

改革プランの策定にあたっては、「国からの押し付けではないのか」「今さら遅いのではないか」などJA、連合会段階でも大きな議論になりましたが、最終的にこれまでの事業を見直し、協同組合の原点に立ち返ってプランを策定していくという結論に至りました。改革プランの表紙に書かれた「農業・農協改革は、自らの意志で」

という言葉がその時の様子を物語っています。

JAグループ北海道改革プランの柱は4項目、多くの修正や変更を重ねながら同年11月に完成しましたが、これが自己改革の基本指針として翌年度のJA北海道大会決議事項へとつながることになりました。

【JAグループ北海道改革プラン-実行計画指針-】

- さらに儲かる農業の実現
 - (1) 収益向上の取り組み
- 担い手を育みサポートする仕組みづくり
 - (1) 担い手の確保・育成
 - (2) 組合員の経営サポート
- 発進！新時代の北海道農業
 - (1) 6次産業化の推進
 - (2) 道産農産物の海外への発信
 - (3) 農業・農村の魅力発信
 - (4) 農業の理解促進（食農教育活動、地産地消の推進）
- 協同組合の未来方向
 - (1) 多様なニーズへの総合的かつ創造的な対応
 - (2) 協同活動の理解促進
 - (3) 地域社会へ貢献するサービスの提供

その先にある、まだ見ぬ世界へ。

新型ジムニー 誕生

キーレスプッシュスタートシステムやフルオートエアコンなど装備も充実

XL 4WD 5MT (機種:JXLU(-J))

メーカー希望小売価格

1,582,000円



ボディカラーは
ネオティックイエロー(LZB)

メーカー希望小売価格はスペアタイヤ・ジャッキ付で、保険料・税金(消費税除く)・輸出等に伴う費用および付属品価格は含まれません。メーカー希望小売価格は参考価格です。詳しくはお問い合わせください。別途リサイクル料金が必要となります。

スズキキャリイ JA特別パッケージ

スズキの予防安全技術搭載・誤発進抑制機能・後方誤発進抑制機能



ボディカラーは
スペリアホワイト(LZB)

JA特別パッケージ装備アクセサリ
9点セットでサービス!
KCスペシャル 4WD 5MT
※機種:KKCU-LG3
お支払い総額 **105⁵万円**
希望小売価格(税込)

取得税・重量税・自賠責・預かり法定費用/リサイクル料金/リサイクル資金管理料 すべて含む
●お支払い総額は店内自給の場合に限ります。●ご要望に基づくオプション等の費用は別途申し受けます。

新車 中古車 車検のことなら JA自動車担当窓口にご相談を!



問合先：湧別町農協整備工場 TEL (01586) 5-2219



『農協法公布記念日にあたって～平成30年11月19日～』

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔 章

このたびの災害により被害を受けられた皆様ならびにそのご家族の皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興へ向けて、JAグループ北海道は組織を挙げて全力で支援に取り組んでまいります。

さて、昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で71年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、総合事業を展開しながら今日に至っております。

例えば安全・安心な食品の生産と、豊かな生活に役立つ購買品の供給、地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する金融事業、総合的な暮らしの保障のための共済事業、健康な日常生活を営むための医療・福祉事業のほか、地域社会に貢献するための様々な社会的取り組みも行なわれております。地震や風水害による大規模災害が発生した際には、各協同組合が物資の支援、ボランティアの派遣、募金活動等を展開することにより、被災地域の復旧・復興支援に大きな役割を果たしております。

本年9月の災害時にも、組合員・JA・連合会等の間における農業機械・発電機等の融通や、被災地への人的・物的支援、被災地農産物の選果受入など、組織内・外を問わない助け合いの精神による支援活動・行動に対し、敬意とともに、協同組合の力を改めて認識させて頂いたところでです。

このように協同組合は社会と地域の人々の暮らしのために、永年に亘って多くの分野でその役割を發揮してきているのです。そのような中、2016年に「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録され、更に本年4月には、我が国の農協、漁協、生協、労働金庫、森林組合等の協同組合が、協同組合間の連携によって力を結集し、地域課題の解決を目的として日本協同組合連携機構（JCA）が発足したところでです。

また、第29回JA北海道大会では、前回大会で設定した将来ビジョンである「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現」を継承し、「農業所得の増大と、多様な担い手の確保・育成」と「次代につなげる協同組合の価値と実践」に向けて、JAグループが一体となって取り組むことと致しました。

農業協同組合に集う組合員、役職員の皆様は、このように世界的に評価され、社会的意義のある協同組合の仲間であることを誇りとしながら、協同活動の輪（食と農でつながるサポーター550万人づくり）を広げて頂きたいと考えております。

このことが新自由主義経済への対立軸としての協同組合の存在意義を高め、永年に亘り先人が築き上げた地域農業並びに地域社会の基盤をさらに発展させ、持続可能な農業へと繋がるものと確信しております。

最後になりますが、JAグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることをお誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。

農協 お知らせ 版

平成30年度 第8回理事会

9月20日開催

報告事項

- ① 監事監査について
- ② 酪農政策課題検討委員会・生乳受託販売特別委員会について
- ③ 畜産物価格基金協会臨時総会について
- ④ 農林水産省畜産部長現地調査について
- ⑤ 平成30年度JA共済コンプライアンス点検実施報告について
- ⑥ 自由金利型定期貯金の受入れと貯金残高の推移について
- ⑦ 平成30年8月末生乳生産実績について
- ⑧ 組合員の営農実績について
- ⑨ 職員の採用及び人事異動について

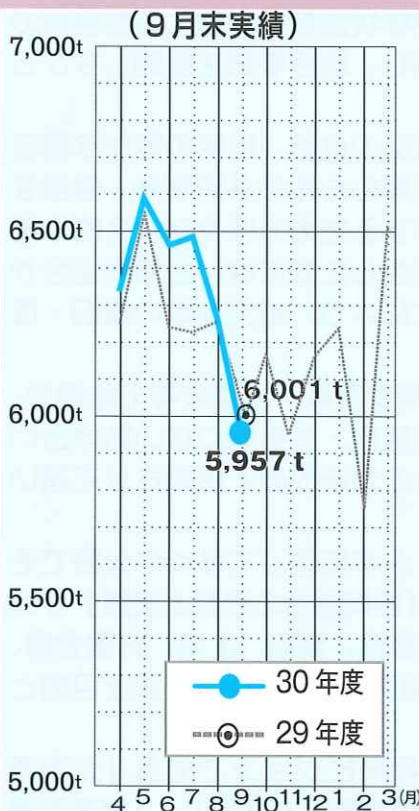
協議事項

- ① 組合員の異動について

平成30年度 生乳出荷状況について

JAゆうべつ町生乳出荷乳量推移

生乳出荷乳量との前年比較



- ② 内部監査規程及び内部監査実施要領の改正について
- ③ 平成30年度肥料大口需要対策実施要領の制定について
- ④ 代位弁済履行に伴う特別出資金の拠出について
- ⑤ 債務保証の解除について
- ⑥ 後継者就農対策事業に係る助成金の支払いについて
- ⑦ 財務管理規程第6条第2項列表の改正について
- ⑧ 北海道胆振東部地震による組合員の被害状況と対策について
- ⑨ 天候不順による収入減少及び費用の増加に対する組合員の支援について
- ⑩ 収穫感謝祭の開催について

～ホクレン湧別給油所・芭露給油所からのお知らせ～

○発電機の軽油について○

先の9月6日の停電により発電機に使用した軽油は、夏用軽油のため冬季間使用または、置いておくと凍結して故障の原因になるので、冬用軽油（特3号軽油）に入れ替えるか、凍結防止剤を入れて発電機を動かし、軽油を循環させる必要があります。
 ※特3号軽油に変わる時期は11月上旬です。
 ※凍結防止剤は各給油所で取り扱っています。